

平成26年度教育学部・研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○前期日程試験で美術教育講座の実技試験を6時間から3時間に短縮した。その結果、受験生が増加し、前年度の定員割れを解消した。また、同講座では一昨年度より面接を導入しているが、その結果、入試における実技作品を見る観点が増え、より適性のある学生の選抜につながっている。今後の課題としては、辞退者の減少のために、より意欲のある受験生の選抜方法を検討したい。 入学者数を改善するための取組 ○学部の入学者数は入学定員の1.04倍であり適正な数である。研究科の入学者数は入学定員の1.03倍であり適正な数である。	平成27年度入学者選抜要項及び学校基本調査資料（資料1） 学校基本調査資料（資料2）	教育学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○単位の実質化を図るためには、その授業がめざす目標を明らかにし、学生がそれに向けて取り組むことが必要である。昨年度よりシラバスにおいて、各授業の「到達目標」と「評価の方法」及び「各時間ごとの内容」を明示することによって、事前の学習を促すようにしている。科目によってはAIMS-gifuを利用した準備学習の提示を行っているが、学生の内容把握に関しては課題が残る。 授業形態に関しては、理科教育講座や数学教育講座では少人数による実験や演習を取り入れている。また「物理学実験」のように学生が課題を設定しつつ、実験を進めるようにしている。 また、授業時間外の学習時間の確保については、レポートの提出を推進したり、実技の練習などを行うことによって、時間の確保に繋がった。 ○大学院においては、各自の研究テーマのもと、ゼミ形式や演習形式で事前準備をしたり、ディスカッションを取り入れたりしている。	教育学部シラバス（資料3）	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	○学部生 卒業時の意識調査により、学生の教員としての知識・技能・態度に関する学習成果の向上が認められる。なお、1年次の教職トライアルについては、教師としての適性を考える機会としての評価が低いために、今年度から改善した教育計画を開始している。 ○大学院生 修了時の意識調査により、学生の教員としての知識・技能・態度に関する学習	卒業時・修了時のアンケート分析（資料4） H27 卒業時・修了時アンケート分析結果（資料5）	

	成果の向上が認められる。「分かる授業を展開する力」は前年度よりも改善された。総合教科教育専攻への改組に伴う教育計画の充実が反映していると考えられる。		
基準 8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○平成 26 年度前・後期授業についてのリフレクションペーパーを実施し、これらを活用して授業を分かりやすくするための工夫を共有した。 ○授業評価の結果についての FD を実施し、授業上の課題を明確にすることができた。その際、授業評価の高い教員から取り組みを紹介する場を設けることにより、学生参加の授業形態を工夫することへの意識が共有された。	H26 年度前・後期リフレクションペーパー集約結果（資料 6） H26. 9. 17 実施の授業評価 FD 資料（資料 7）	

